

令和2年度「学校給食・食育総合推進事業（委託事業Ⅱ：つながる食育推進事業）」成果報告書

受託者名	静岡県教育委員会
実施校名称	裾野市立東小学校
対象学年及び児童生徒数	全学年、620人
栄養教諭の配置	平成22年から栄養教諭が1人配置
実施校名称	裾野市立富岡第一小学校
対象学年及び児童生徒数	全学年、490人
栄養教諭の配置	平成30年から栄養教諭が1人配置

1 取組前の状況と研究目的

小中学校の児童生徒の静岡茶の愛飲の促進に関する条例
 ★静岡茶をツールとした食育を推進することにより、児童生徒の健全な心と体を培い、豊かな人間性を育むことを目指す。

県内の現状	<ul style="list-style-type: none"> ・茶産地では総合的な学習の時間等において静岡茶を教材とした学習に取り組んでいた、給食時に静岡茶が提供されたりしている。 ・茶産地以外では、子供たちは静岡茶を身近に感じにくく、静岡茶の食育に積極的に取り組まれていない。家庭でお茶を飲む機会も少ない。 ・県内の小中学校における静岡茶の食育を推進し、静岡茶の愛飲習慣を定着化するためには、静岡茶をツールとした食育モデルの構築が課題である。
-------	---

<p>裾野市の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・茶産地ではなく、一部の地域において、家庭用の茶を生産する程度である。 ・朝食摂取率は高いが、食事内容、共食、食事マナーに課題がある。 ・食育に関心が高い家庭は多いものの、家庭ではあまり取り組まれていない。 ・家庭における食事の環境づくりの支援が必要であり、地域ぐるみで子供を育てる体制づくりが課題である。

R1 つながる食育推進事業

<p>裾野市立東小学校</p> <p>〔取組〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・静岡茶を教材とした栄養教諭による食に関する指導の実施 ・外部講師による体験教室の実施 ・PTA活動で静岡茶講座の開催 <p>〔成果と課題〕</p> <p>学校と家庭がつながることができた一方で、地域とのつながりに課題が残った。</p>	<p>裾野市立富岡第一小学校</p> <p>〔取組〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域に茶畑があり、地域の生産者の協力を得て総合的な学習の時間に静岡茶を教材とした食に関する指導を実施 <p>〔成果と課題〕</p> <p>学校と地域がつながった一方で、家庭とのつながりに課題が残った。</p>
---	---

他校や他地域で静岡茶をツールとした食育を推進するモデルとなるように、令和元年度の取組を精査し、学校・家庭・地域が無理なく連携した体制を構築する。

2 研究の意義

静岡県では、静岡茶愛飲促進条例の趣旨に基づき、県内全域で静岡茶愛飲を推進しており、本条例の目的を達成するためには、茶産地以外の地域において重点的に取組を推進する必要がある、静岡茶食育モデルを構築することが重要と考える。

令和元年度つながる食育推進事業を受託し、実施校において取り組んだ結果得られた課題は、県内の多くの学校で課題として挙げられる点であることから、実施校の成果を共有することで解決が期待できる。実施校の成果を成功事例とし、各学校で校長のリーダーシップのもと、栄養教諭が中核となり、継続可能な学校・家庭・地域がつながる取組を実施し、静岡県ならではの地域色を活かしたアプローチ方法により、各校の学校教育目標に迫りたいと考えている。地場産物をツールに展開したアプローチ方法を開発できれば、県外においても、その地域の地場産物を活用して同様な取組を実践することができることから、大変意義のある研究と考えている。

3 連携機関及び連携内容

連携機関名	連携内容
県経済産業部お茶振興課、県東部農林事務所	茶生産者等との連絡調整等
裾野市茶業関係者	体験活動受け入れ、講座の講師等
裾野市PTA連合会	学校と家庭との連携、食育講演会等
学校PTA（家庭教育学級等）	学校と家庭との連携等
地域学校協働本部実行委員会（富っ子スクール）	食農体験支援等

4 推進委員会の構成

委員	山中 なほみ	裾野市立東小学校	校長
委員	山崎 南津代	裾野市立東小学校	栄養教諭
委員	米田 亜紀子	裾野市立東小学校	PTA代表
委員	勝又 和仁	裾野市立富岡第一小学校	校長
委員	内田 鈴乃	裾野市立富岡第一小学校	栄養教諭
委員	伊藤 直子	裾野市立富岡第一小学校	PTA代表
委員	川波 正美	裾野市教育委員会学校教育課	指導主事
委員	勝又 直美	(株)勝国製茶（茶生産者代表）	代表
委員	佐野 浩司	県経済産業部お茶振興課	課長代理
委員	村松 明優	県経済産業部お茶振興課	主事
委員	鈴木 隆	県東部農林事務所企画経営課	専門官
委員	鈴木 晴喜	県東部農林事務所企画経営課	技師
事務局	野際 建司	県教育委員会健康体育課	健康食育班長
事務局	眞田 麻貴	県教育委員会健康体育課	教育主査

5 研究内容・方法

(1) 児童生徒の食に関する自己管理能力の育成

〔研究目標〕

静岡県が目指す児童生徒の静岡茶愛飲の習慣化のための学校における静岡茶に関する取組のあり方について、学校・家庭・地域がつながる食育の推進を図ることを通して明らかにする。

〔研究仮説〕

- 静岡茶をツールに食に関する事柄を学習することを通して、静岡茶を含む食に関する理解が深まり、郷土への愛着が高まるとともに、日常生活における食の実践力及び静岡茶の愛飲習慣が身につくだろう。
- 親も子も共に静岡茶について学び、家庭でお茶を飲むことで家族のコミュニケーション及び共食（特に朝食）の機会が増え、家庭の教育力が高まるだろう。

〔評価指標〕

- 朝食をとっている割合
- 栄養バランスのとれた朝食をとっている割合
- 朝食を大人と一緒に食べる割合
- 裾野市でお茶を生産していることを知っている割合
- 家で緑茶を毎日飲む・飲む日が多い割合
- 朝食指導への取組

〔評価方法〕

事業実施前及び事業実施後に、全校児童を対象とした記述調査を実施し評価する。

〔具体的取組〕

① 裾野市立東小学校の取組

ア 静岡茶を教材とした教科等横断的な学習

4年生が総合的な学習の時間に「スマイルで茶チャCHA」と題して、静岡茶についての調べ学習や、栄養教諭や保護者と連携した体験学習（おいしいお茶の淹れ方教室、茶摘み体験、茶道体験）を行い、まとめて発表した。

＜茶摘み体験＞



保護者による実習の支援

＜おいしいお茶の淹れ方教室＞



茶畑でお茶をとっている人は、こんなに大変なんだね。

お茶の正しい淹れ方は知らなかったよ。家にも急須があるからいれてみたいな。

とてもきれいな緑で、見ただけでおいしい!と思ったよ。

＜茶道体験＞



お茶をたてるのは、思った以上に難しかったよ。またやってみりたいな。

道具の名前やお茶のたて方、お座敷に上がるときのマナーがわかったよ。



学校にある和室を活用し、作法を学びました。

5年生は家庭科の授業で、栄養教諭によるおいしいお茶の淹れ方の学習を行った。

6年生は総合的な学習の時間に日本茶インストラクターを講師に招き、静岡茶の種類や産地、おいしい淹れ方について学ぶとともに、キャリア教育の一環としてお茶に関する仕事についての講話を聞いた。

<栄養教諭によるお茶の淹れ方の学習>



同じお茶でも種類の違いで、味が違ったよ。それぞれのおいしさがあったよ。

お茶は苦いと思っていたけど、一口飲んだら「おいしい!」と思ったので、家でもいれて飲みたいな。

<日本茶インストラクターによるお茶の淹れ方講座&講話>

家の人にも、私がいれたお茶を飲んでもらいたいな。

お茶作りの苦労や楽しさを教えてもらい、参考になったよ。

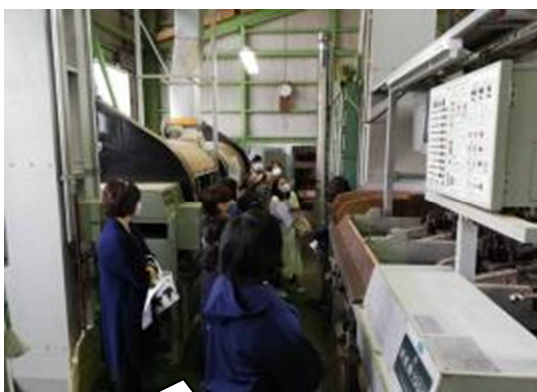
他にどんなお茶があるのだろう? 静岡県民として、お茶についていろいろ知りたいな。



イ 家庭教育学級

昨年度に引き続き学校と家庭のつながりを深め、家庭での静岡茶愛飲習慣の定着化を図るため、PTAの家庭教育学級において静岡茶に関する講座を実施した。昨年度、おいしいお茶の淹れ方講座や冷茶づくり等の講座を行いお茶に対する興味関心を高めることができたので、今年度はさらにお茶に関する知識を深め、家族でお茶を楽しみながらコミュニケーションや共食の機会が増えるように、地域の製茶工場見学、日本茶インストラクターによるお茶講座、栄養教諭によるお茶を使ったお菓子作りを行った。

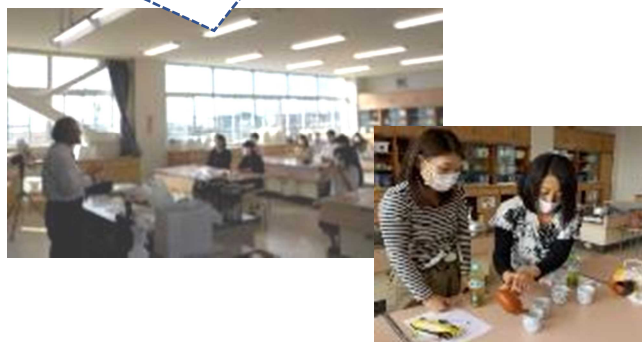
<製茶工場見学>



繊細な緑茶が、いくつもの大きな機械を通過して作られていることに驚きました。

<お茶講座>

「TPOに応じたお茶の知恵」をテーマに、12種類の品種茶を試飲しながら、それぞれのお茶にあった淹れ方や特徴、効能について学びました。



<お茶を使った調理実習>



講師は栄養教諭
家庭にある材料で、手軽に簡単に作れるレシピになるように工夫しました。
栄養教諭が講師となることで、今後、いつでも実施することができます。

バームクーヘンは楽しく作れるので、家で子供とチャレンジしたい！



② 裾野市立富岡第一小学校の取組

ア 静岡茶を教材とした教科等横断的な学習

3年生が総合的な学習の時間に「茶レンジ！お茶博士！」と題して、静岡茶についての調べ学習や、栄養教諭と連携した体験学習（おいしいお茶の淹れ方教室）を行い、新聞にまとめた。

当初の計画では、地域の茶生産者等の協力を得て、地域の茶畑で茶摘み体験や、手もみ茶体験を行う予定であったが、コロナ禍による臨時休業や体験活動の自粛のため実施できなかった。

<お茶の淹れ方教室>



お茶をいれて飲むのが、楽しみだな。



家でも学校でやったことを思い出して、家族にお茶をいれてあげたいな。

4年生は、社会科でお茶が静岡県の特産物であることを知り、総合的な学習の時間にお茶の栽培方法や収穫時期について調べ学習を行った。社会科見学で「ふじのくに茶の都ミュージアム」へ行き、広大な茶畑や製茶に使用する機械、様々な種類のお茶などの展示物等を見て、触れて、体験することで、静岡県における茶産業や静岡茶の歴史等について学びを深めた。

お茶を作るための機械を見ることができて、お茶の葉がどうやってお茶になるか分かったよ。

いろいろな種類のお茶があり、見た目やにおいがちがうことが分かったよ。



5年生は家庭科の授業で、栄養教諭によるおいしいお茶の淹れ方の学習を行った。

おいしいお茶をいれてみよう！
5年

★おいしくするポイント

① お湯の温度は、70℃が適温
お湯をわかし、やかんの熱湯から湯冷ましなどにお湯を移して冷ます。
(一煎目：やかん→ポット→湯冷まし→茶碗)

② お茶の量は、2～3匙 (小さじ 1 杯)

③ 冷ましておいたお湯を、きゆうすに入れる。

④ 待ち時間(しん出時間)は、1分

⑤ 注ぎ方
同じ量、同じ濃さにするために、同じ注ぎをする。

いちばん好きな味にのまってみよう。

おまけに作った「ヨルダンポロニア」

	一煎目	二煎目	三煎目
ポイント	ポットの注ぎ口をゆすぎ、お湯を注ぎます。	ポットの注ぎ口をゆすぎ、お湯を注ぎます。	ポットの注ぎ口をゆすぎ、お湯を注ぎます。
お湯の冷まし方・待ち時間など	待ち時間 60秒	待ち時間 30秒	待ち時間 0秒
味のちがいの色ちがいのなど	少し濃い色で、苦味と渋味がある。	緑茶の味、少し苦味がある。	お茶の味が、少し濃い。

★ふり返り
お茶についてよく知れた。
家でも淹れたい。

6年生は特別活動で茶道体験を行った。社会科で学んだ茶の湯の文化や作法について、自分でお茶を点てたり実際に体験したりすることで理解を深めた。

<茶道体験>



おいしいお茶をいれるポイントは、

- お湯の温度
- お茶の葉の量
- 待ち時間
- 注ぎ方

だと分かったよ。

お茶をたてる時の手の動かし方が難しかったよ。抹茶は思っていたよりも苦かったけど、おいしかったよ。

イ 富っ子スクール（地域学校協働本部実行委員会）との連携

学校の教育活動を支援する地域ボランティアである「富っ子スクール」と連携し、食農体験活動に取り組んだ。今年度は、臨時休業のため、児童に代わり地域の茶畑でお茶摘みをしてくれた。摘んだ茶葉は、地域の製茶工場で製茶加工をし、授業や学校給食等で活用した。



③ 「つながる ひろがれ 食育講演会」の開催

食育についてつながりと広がり大切にしたいという思いから、香川県の小学校で校長として在任中に「弁当の日」に取り組んだ竹下和男先生を講師に招き、市内各学校のPTAを対象とした食育講演会を実施した。

子供たちは置かれた環境を「普通」と認識して育つ、どんな環境を作るかは親の役目である。子供はやらせたらできる、子供に任せてみる事が大切等、弁当の日に託した思いを聞き、子供が自立するために親（家庭）はどうすべきかを見つめ直すきっかけとなった。



(2) 栄養教諭を中核とした全校体制による食育の指導・評価方法の開発

〔研究目標〕

食に関する指導の全体計画の運営及び評価のあり方について、指導部会の運営及び学校評価項目の検討を行うことを通して明らかにする。

〔評価指標〕

- 食育推進委員会の位置づけ
- 学校評価の食に関する項目でAの割合
- 栄養教諭の参画を明記した、食に関する指導の全体計画の作成

〔評価方法〕

食に関する指導の全体計画及び学校評価により評価する。

〔具体的取組〕

食育推進委員会を既存の指導部会に位置付け、今年度実施した食に関する指導等を評価して振り返るとともに、次年度に向けて食に関する指導の全体計画の改善、作成を行った。改善した全体計画には静岡茶に関する部分を色付けしたり、栄養教諭が参画する場面には☆印で示したりすることで、明確化した。

評価について、東小学校は文部科学省の教職員調査を今年度の評価として利用した。次年度以降、学校評価に食に関する指導の評価項目を設定する予定である。富岡第一小学校は、学校評価に食に関する指導について2項目設定して評価している。

- 給食時間において、食事のマナーを意識した指導や見届けができたか。
- 給食の時間や食に関する授業・活動等により、子供たちの食に関する関心は高まっているか。

(3) 栄養教諭間の連携及び栄養教諭の研修

〔研究目標〕

市内の児童がどこの学校においても同水準の食に関する指導を受けるために、近隣の栄養教諭間の連携のあり方について、本事業のモデル校の栄養教諭間の関わり方を検討することを通して明らかにする。

〔評価指標〕

- 市内栄養教諭研修会の実施回数
- 「(1)児童生徒の食に関する自己管理能力の育成」の評価指標の達成した項目数

〔評価方法〕

実践記録、記述調査により評価する。

〔具体的取組〕

小学5、6年生の家庭科では、食育啓発リーフレット「朝ごはん食べていますか。」（静岡県教育委員会発行）を活用し、学級担任とのティームティーチングにより、五大栄養素や3つの食品のグループ等を学習するとともに、朝食指導を行った。学校給食では、静岡茶を使った料理のレシピを共有し、毎月の献立に登場させた。全校児童にリーフ茶やスティック茶を配布し、家庭や学校で静岡茶を飲む機会を提供し、静岡茶の愛飲促進を図った。その他、給食時間の感染予防対策、朝食指導等の給食だよりや、静岡県の特産品に関する掲示資料などを共有した。

市内3名の栄養教諭が連携して、栄養教諭研修会を実施した。栄養教諭研修会では、市内統一で取り組む食に関する指導実施計画等を作成し、給食の時間の指導内容や指導資料、学習指導案の検討、献立の共有等を行った。また、食に関する指導の全体計画についても研修を行い、栄養教諭が土台となるものを作成し、それをもとに各学校の推進委員会で検討した。

さらに、経験の浅い栄養教諭が家庭科のお茶の淹れ方の授業を行う前には、経験豊富な栄養教諭の授業を見学するなど、指導方法や内容を研修し、その後の自身の授業に活かした。

<食育啓発リーフレット>

<静岡茶を使った献立>

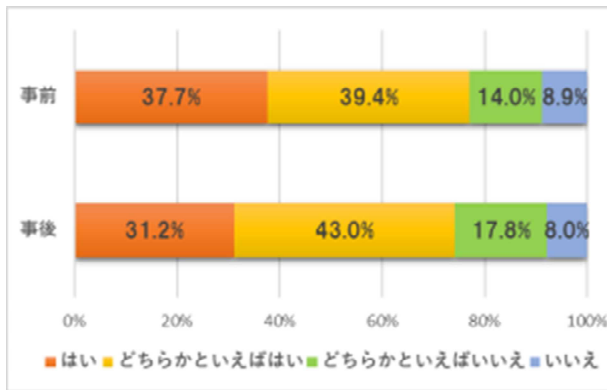


6 評価指標の測定結果

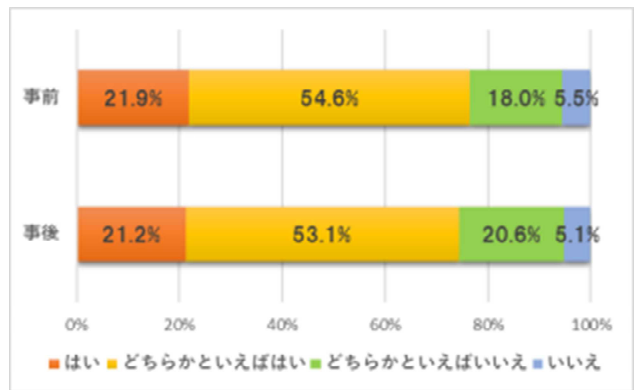
(1) 共通指標（「つながる食育推進事業調査実施要領」で示す評価指標）について

○一日や一週間の栄養バランスを考えて食事やおやつをとりますか。

【児童】

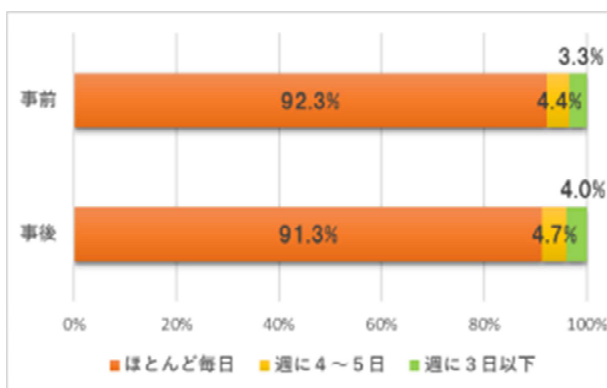


【保護者】

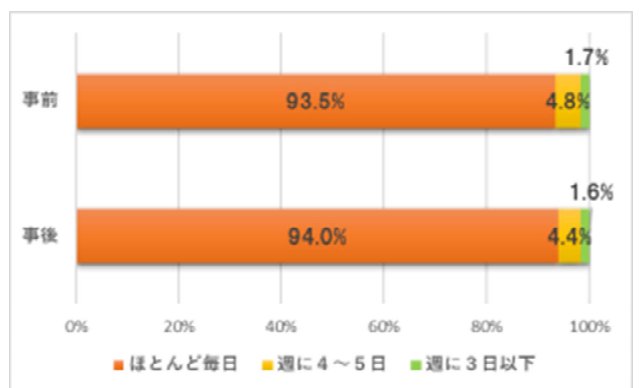


○朝食を毎日食べますか。

【児童】

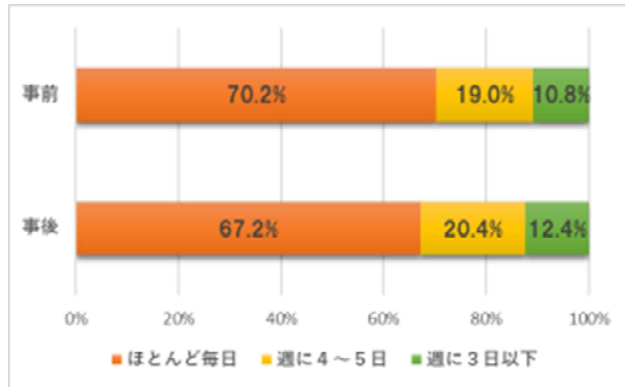


【保護者】

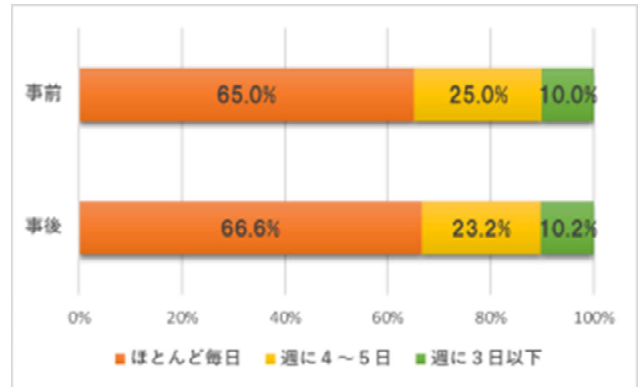


○主食、主菜、副菜を3つそろえて食べることが一日に2回以上ありますか。（学校給食も1回に数えます。）

【児童】



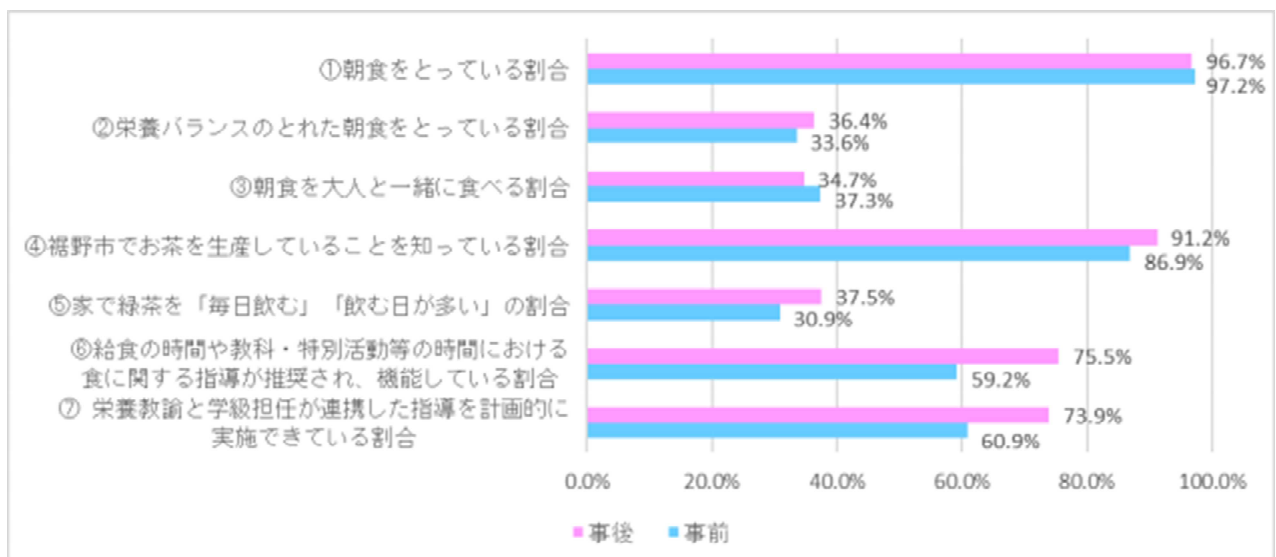
【保護者】



(2) 独自指標について

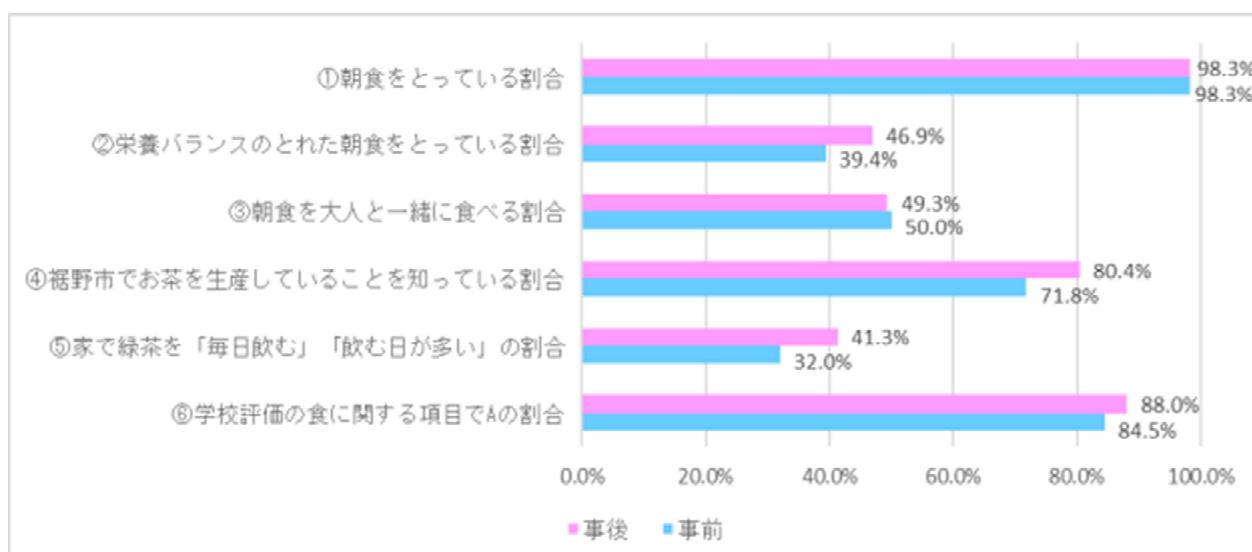
① 裾野市立東小学校の測定結果

評価指標	事前	事後	増減	目標
朝食をとっている割合	97.2%	96.7%	-0.5%	100%
栄養バランスの取れた朝食をとっている割合	33.6%	36.4%	2.8%	40%
朝食を大人と一緒に食べる割合	37.3%	34.7%	-2.6%	45%
裾野市でお茶を生産していることを知っている割合	86.9%	91.2%	4.3%	95%
家で緑茶を「毎日飲む」「飲む日が多い」割合	30.9%	37.5%	6.6%	35%
給食の時間や教科・特別活動等の時間における食に関する指導が推奨され、機能しているかで「できている」「おおむねできている」の割合	59.2%	75.5%	16.3%	—
栄養教諭と学級担任が連携した指導を計画的に実施できているかで「できている」「おおむねできている」の割合	60.9%	73.9%	13.0%	—



② 裾野市立富岡第一小学校の測定結果

評価指標	事前	事後	増減	目標
朝食をとっている割合	98.3%	98.3%	0%	100%
栄養バランスの取れた朝食をとっている割合	39.4%	46.9%	7.5%	50%
朝食を大人と一緒に食べる割合	50.0%	49.3%	-0.7%	55%
裾野市でお茶を生産していることを知っている割合	71.8%	80.4%	8.6%	85%
家で緑茶を「毎日飲む」「飲む日が多い」割合	32.0%	41.3%	9.3%	45%
学校評価の食に関する項目でAの割合	84.5%	88.0%	3.5%	昨年度 以上



7 成果と課題

(1) 成果

① 裾野市立東小学校

- 事前と事後の調査結果を比較すると、お茶に関する項目はすべて増加し、2年間の取組で定着しつつある。
- 昨年度、総合的な学習の時間でお茶に取り組み、今年度家庭科でお茶の淹れ方を学習した5年生は、4年生時の事前調査結果と今年度の事後調査結果を比較すると、裾野市でお茶を生産していることを知っている割合は90.4%から100% (+9.6%) に、緑茶を毎日飲む・飲む日が多い割合は27.9%から50.5% (+22.6%) と大きく増加した。
- 朝食に関する項目については、朝食をとっている割合と朝食を大人と一緒に食べる割合は減少したが、栄養バランスのとれた朝食をとっている割合は増加した。
- 食育啓発リーフレットを活用して、授業等で指導を行った5、6年生は、事前と事後の調査を比較すると、5年生は41.3%から53.9% (+12.6%) に、6年生は37.9%から47.2% (+9.3%) と他学年よりも大きく増加した。
- 今年度は文部科学省からの教職員向け調査を、食に関する指導の学校評価として活用し、コロナ禍で、計画通りに実施できない指導もあったが、指導に当たっては、栄養教諭と学級担任等との連携が図られた。
- 昨年度と同様に、PTAの家庭教育学級と連携した取組を継続し、家庭教育学級を中心とし

て、保護者と学校がつながることができ、さらには、栄養教諭と保護者がつながり、輪が広がりつつある。

○臨時休業期間にはHPによるレシピ紹介等の発信に力を入れ、保護者への意識付けを図ることができた。

○PTA対象の食育講演会にあわせて、会場である同校では、6年生に対しても講演を行った。児童からは「未来のために今日から食生活を変えたい」「家族の一員として自分にできることを自ら進んでやる」、保護者からは「今日から子供と一緒に自分も楽しめる料理を作りたい」などの感想が聞かれ、本事業の目的でもある「親も子も共に学ぶ」機会となり、その後の食生活の改善がみられつつある。

② 裾野市立富岡第一小学校

○お茶に関する項目については、昨年度、総合的な学習の時間でお茶について学び、今年度、社会科見学でふじのくに茶の都ミュージアムに行き、製茶工程や様々な種類のお茶について等、実感を通して学んだ4年生は、3年生時の事前調査結果と今年度の事後調査結果を比較すると、「裾野市でお茶を生産していることを知っている」割合は77.8%から91.4% (+13.6%)と大きく増加した。また、「家で緑茶を毎日飲む・飲む日が多い」割合は58.6%と全学年のうち一番高かった。

○朝食については、栄養バランスのとれた朝食をとっている割合が増加し、特に食育啓発リーフレットを活用して、授業等で指導を行った5、6年生は、事前と事後の調査を比較すると、5年生は34.4%から44.4% (+10.0%)に、6年生は44.3%から57.4% (+13.1%)と大きく増加した。

○地域学校協働本部「富っ子スクール」と連携をとり取組を継続し、米作りや野菜作りは、以前から地域の協力を得て行っていたが、昨年度から「お茶」を核とした取組を始めたところ、地域の産物として「お茶」の視点が加わり、新たな人材のつながりもでき、地域と学校の絆が深まった。

○3年生の総合的な学習の時間、4年生の社会科、5年生家庭科と、「お茶」を核にして地域とつながり、体験活動等を取り入れながら教科等横断的な学習が行える土台が整いつつある。今後もこの取組を継続し、学校文化として築き上げていくことで、学校、家庭、地域のつながりを深めていきたい。

○新型コロナウイルス感染拡大予防のため静岡茶講座等を取り止めたことにより、お便りやHPによる発信にとどまった。しかし、お便りやリーフレットに家庭からの欄を設けたことで、家庭の様子等を知ることができ、また、保護者の意識改革にもつながった。

③ 栄養教諭を中核とした全校体制による食育の指導、栄養教諭間の連携及び栄養教諭の研修

○食育推進委員会（指導部会）で話し合うことで、各学年の指導計画にも栄養教諭が参画する箇所は★印をつける等の提案もあり、食に関する指導を全校体制で行うことへの理解と意識が向上した。

○今年度実施した取組を評価し、次年度の計画を検討、改善する体制が整った。

○栄養教諭研修会では、食に関する指導の全体計画についての研修や、授業参観、資料の共有等を行い、栄養教諭間の連携を図ることで若手栄養教諭の指導力、資質が向上した。

(2) 課題及び改善方法

- 家庭教育学級や食育講演会に参加する保護者は意識の高い人が多く、家庭でも実践を行っているが、参加者以外への啓発が大きな課題である。今まで参加できなかった保護者とのつながりを強くするためには、学校を会場として実施するだけでなく、地域のコミュニティー祭りで児童がお茶をふるまう等地域と連携した発信やICTを活用した取組等様々な手法でアプローチしていくことが考えられ、その工夫と充実が求められる。
- 取組を継続するためには、保護者で核となる人材が必要不可欠であり、日頃から情報交換をしてつながりを強くしておくことが今後の発展のためには必要である。
- 次年度よりタブレット端末が全児童に配布される予定である。動画配信やアンケート調査、家庭での取組の共有、地域への情報発信などICTを活用し、学校からの一方向の発信だけでなく、多方向のやり取りができる新たな方法を工夫する。
- 今年度、栄養教諭研修会に市教育委員会担当指導主事の参加を依頼した。これにより、栄養教諭が兼務している市内の栄養教諭未配置校においては、支援体制があるものの、その活用について学校により温度差があり、市内各校で食育の推進にばらつきがあるという課題を共有することができた。今後、市教育委員会主導のもと、モデル校の取組を各学校に広げるための発信や市内で足並みをそろえた食育の推進のための仕組みづくりをし、統一した食に関する指導が実施できるようにしていきたい。

8 情報発信と普及の計画

- 各実施校のHPで活動や情報を紹介（随時）
- 県教育委員会教育広報誌「Eジャーナルしずおか」で紹介
- 報告書を作成し、全都道府県教育委員会、静岡県内市町教育委員会、公立小中学校、県立中学校、県立特別支援学校、県庁関係課、共同調理場等に配布し、静岡県教育委員会のHPに掲載
- 栄養教諭・学校栄養職員の経験年次別研修において研修資料として活用
- 県教育委員会主催の栄養教諭・学校栄養職員講習会において取組事例報告
- 静岡県PTA連合会が発行する「PTA新聞」で紹介